



稲穂のさとし

吉見町立吉見中学校
学校だより 第11号
令和7年1月8日

あたりまえのことがあたりまえにできる学校

謹んで新年の御挨拶を申し上げます

私たち吉見中学校教職員一同は、こうして無事に3学期が始業できたことに感謝し、今年も「すべては子供のため」をモットーとして指導にあたります。そして、全力でお子様の成長のお手伝いをさせていただきます。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

令和7年も最強の吉見中学校で突き進む！！

令和7年が幕を開け、14日間の冬休みを終え、今日から気分一新、3学期のスタートです。

この冬休み、充実した毎日を送ることができましたか。また、冬休みの目標に沿って、満足のいく冬休みが送れたでしょうか。

今の学年での生活も、残すところあと3ヶ月です。学校に来る日数で言うと、今日を入れて修了式まで52日(3年生は、卒業式まで46日)です。たったの7週間、2ヶ月程しかありません。そう考えると、あっという間です。

卒業式や修了式では、「吉見中学校の生徒で本当に良かった」「すばらしい令和6年度だった」と、思えるようにしたいものです。そのための序章が、すでに今日から始まっています。



「二度とない今」 真剣に思いを馳せる

「1年の計は元旦にあり」です。2学期最後の学校だより「稲穂のさとし」や終業式の式辞でも触れました。

1月1日の元旦、元旦とは1月1日の朝という意味ですが、新たな気持ちで新年を迎え、新しい目標を立てるのが、昔からの習わしです。この先、みなさんが新年に立てた抱負や夢を叶えることができれば、こんなにすばらしいことはありません。

目指すべきものが高ければ高いほど苦難も多いわけですが、逆にそれを乗り越えれば、達成した時の喜びも大きいものです。しかし、それが途中までしかやり遂げられなかったとしても、抱負や夢に向かって努力したことは、いつまでも自分自身の大きな自信となって残ります。決して無駄なことではありません。抱負や夢に向かって努力する過程こそ、もっとも大切にされるべきことです。

ですから、皆さんが新たな気持ちで描いた抱負や夢を1年間もち続けられるよう、また、皆さんが自信をもって自分の目標に向かって歩いていけるよう、私たち教職員も一丸となってしっかりと支援していききたいと思います。

いずれにしても、今日から3学期が始まります。この3学期は、進級や卒業を迎える年度末の学期であり、来年度への橋渡しとしても重要です。



《12/7(土) 町内マラソン大会の一コマ》

3年生は、4月になるとそれぞれがそれぞれの場所での新しい生活が始まります。
2年生は、令和7年をどんな年にしたいのか、進路決定を控えての抱負を考える時です。
1年生は、4月に新入生を迎え「先輩」として後輩をやさしく導いていかななくてはなりません。

「今日」という日を、あるいは「今」という一瞬をしっかりと過ごすことが大切です。今を逃したら二度と取り返すことができないからです。

「二度とない今」に真剣に思いを馳せながら、毎日を精一杯過ごすことを常に意識してください。

この令和7年が皆さんにとってすばらしい1年となることを願っています。そして、3学期も吉見中学校339人の力を結集して、吉見中学校66年の歴史始まって以来の最高の学校をつくっていきましょう。

「今年こそ！！」という勢いで「自分をしつける」

「今年はこれにチャレンジしよう」「今年はこれができるようになりたい」など、様々な新年の抱負をもち、3学期を迎えたことと思います。

その「今年こそ！！」という今の勢いを大切に、この勢いのまま実行に移しましょう。

そして、この勢いで「自分の足りない部分」にも注目し、自分で自分をしつけてみましょう。3学期を迎えた吉見中学校の生徒であるならば「自分のしつけ」ができるはずです。まずは、次の3つを心がけてみてください。

- 一 新年の決意や目標に照らして、今日の自分を反省し、同じ後悔をしないように努力する。
- 二 課題や自分の仕事は、最後までしっかりやり遂げる責任感をもつ。
- 三 他人のために自分の力が提供できる人、仲間からみて頼りにされる人になれるよう努める。

あたりまえのことがあたりまえにできる学校

本校では「あたりまえのことがあたりまえにできる学校」を学校経営方針に掲げ、その実現に向けて、教職員も生徒も一体となってあらゆることに取り組んでいます。

繰り返し指導を重ねてきた「あいさつ励行」や「登下校時の安全」などは、方針実現のための一方策にしか過ぎません。数多くの学力向上策などもそうです。

もちろん、課題は多くあります。しかし、その課題解決に向けて、教職員と生徒が英知を結集し、力強く前に進もうとしていますし、進んでいます。

そういう意味では、吉見中学校には平和で楽しい時間が流れています。これはまさしく、生徒の力です。間違いなく子供たちは、母校となるこの吉見中学校で、確実に力をつけ成長を果たしています。3学期が始まる今、強く確信することです。

四六時中話しをしてきた「あいさつ」は、至極普通にあたりまえに励行できています。でも、まだまだ一歩その先へ進める必要もあると思っています。

その他のことも、伸ばすべき余地はたくさんです。でも、確実に着実に成果として目に見えていることは確かです。そんな吉見中学校で学ぶ吉見の中学生として、高い誇りと熱い思いをもって、毎日の学校生活を送ってほしいと切に願っています。



《2学期終業式(放送)の様子》

吉見中生の活躍

第59回 郷土を描く児童生徒美術展

【入選】安藤 航太(1年)・伊藤 心華(1年)・前田 ゆか(1年)・中原 雅姫(1年)・中村 心春(1年)・北村 羽麗(2年)・小坪 香恋(3年)